

“トピック”

☆筑波宇宙センター特別公開主要イベント（その1）

4月19日（土）の科学技術週間筑波宇宙センター特別公開では、恒例となったモデルロケット体験教室を行います。参加者自身で紙を丸めロケットを作り、専用の火薬（ロケットエンジン）で打ち上げるという本格的なものです。他にも様々なモデルロケットの打上げデモンストレーションを行います。珍しいロケットが次々に打ち上がりますので、ご期待ください。

筑波宇宙センターへの案内は下記をご覧ください。

http://www.nasda.go.jp/pr/visit/tksc/index_j.html



NASDA君ロケット

“今週の国際宇宙ステーション（ISS）”

☆最初のISS構成要素打上げから1599日経過しました

☆第6次長期滞在クルーのISS滞在は133日経過しました

☆ISS動向

第6次長期滞在クルーは船外活動の準備を続けています。今回の船外活動は窒素タンクのヒータートラブルに関する点検や故障した機器の交換修理などのために行うもので、日本時間4月8日午後9時30分から6時間半にわたり実施される予定です。この様子は、NASA TVで放映されます。

NASA TV

<http://jem.tksc.nasda.go.jp/gallery/video/live/live.html>



船外活動作業の開発試験を行うパウアーソックス（右）とペティ宇宙飛行士（左）

☆ISSからの星野写真公開

ISSから撮影した天体写真がNASAのウェブサイト公開されました。宇宙から見た星は大気の影響を受けないため地上とは比べ物にならないほど良好で、デジカメでもすばらしい星野（せいや）写真が撮影できます。

NASA Human Space Flight ~ Gallery Exp.6 In-flight

<http://spaceflight.nasa.gov/gallery/images/station/crew-6/inflight/ndxpage13.html>



南十字星、コールサック星雲、カリナ星雲

“コロンビア号事故調査状況”

☆OEXレコーダのデータ解析進む

3月19日に回収された飛行状況を記録するOEXレコーダは良好な状態で見つかり、事故原因の究明に大きな前進をもたらしてくれると考えられます。現在100名以上の技術者が急ピッチで解析を進めています。

OEXは打上げ上昇時と再突入時に、圧力、温度など低容量のデータと、荷重負荷、速度、尾翼の状態、主エンジンの振動など高容量のデータを記録する装置です。

データ解析の結果、現在までに判明したことはコロンビア号の左翼前縁から機体後部に向かって熱が進入したこと、再突入後80秒からすでに左翼の温度の上昇が始まっていることなどです。



回収されたOEXレコーダ

2003年10月1日から宇宙開発事業団は独立行政法人宇宙航空研究開発機構に移行します。

問い合わせ先：宇宙開発事業団 宇宙ステーション・きぼう広報・情報センター TEL: 029-868-3074

ISS・きぼうホームページ <http://jem.tksc.nasda.go.jp/> Eメール kibokoho@nasda.go.jp

※「ISS・きぼうウィークリーニュース」に掲載された記事を転載する場合、本ウィークリーニュースから転載した旨を記述ください。